

令和3年度全国学力・学習状況調査
柏原市における結果の概要について

柏原市教育委員会

【全国学力・学習状況調査の概要】

1. 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象学年

小学校第6学年児童

中学校第3学年生徒

3. 調査内容

(1) 教科に関する調査(小学校・・・国語、算数)(中学校・・・国語、数学)

(2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

① 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

② 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※調査問題については以下の国立教育政策研究所のホームページ内に掲載されています

<https://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

令和3年度全国学力・学習状況調査結果(全体1)

今年度の結果

小学校

	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	全国 (正答率)
国語	66	63	64.7
算数	71	70	70.2

中学校

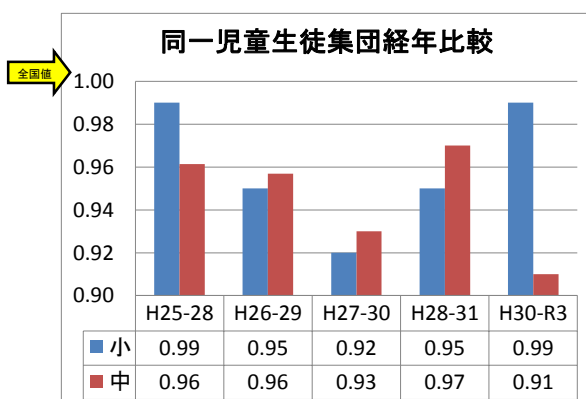
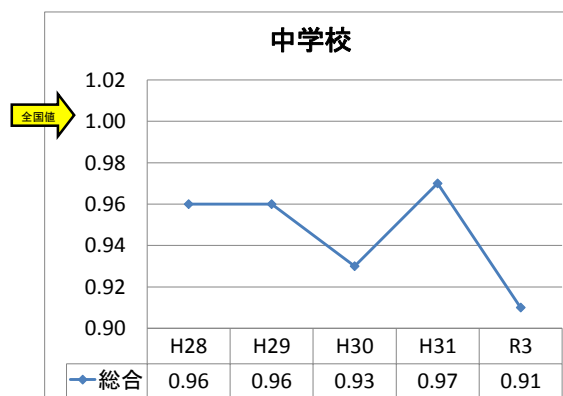
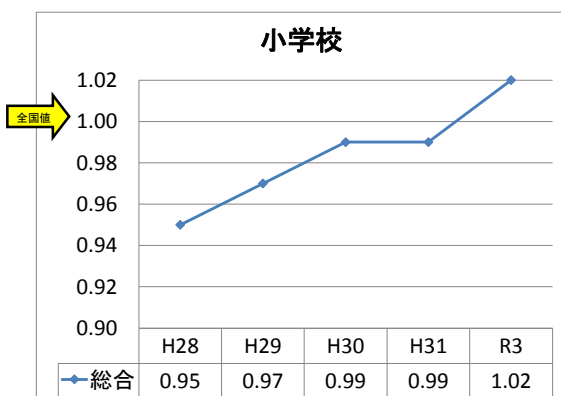
	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	全国 (正答率)
国語	60	62	64.6
数学	51	56	57.2

- ・小学校において、国語、算数ともに全国平均及び大阪府平均を上回った。
- ・中学校において、国語、数学ともに全国平均及び大阪府平均を下回った。

5年間推移(全国比)

※全調査(不定期実施の理科と英語を除く)を総合した平均正答率を算出し、全国の平均正答率を1として表したもの

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等が考慮され、全国的に「実施なし」



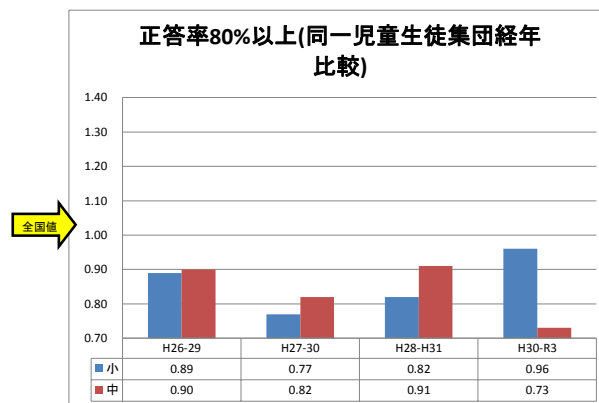
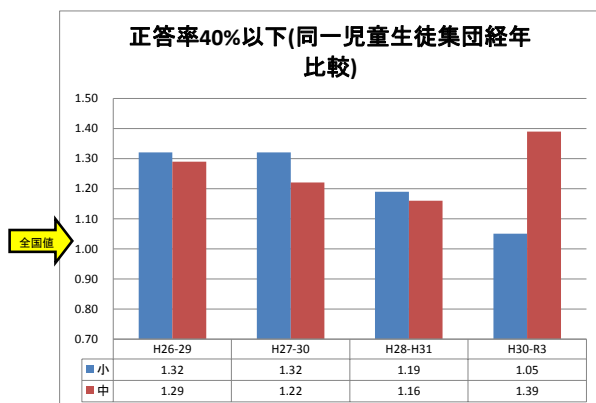
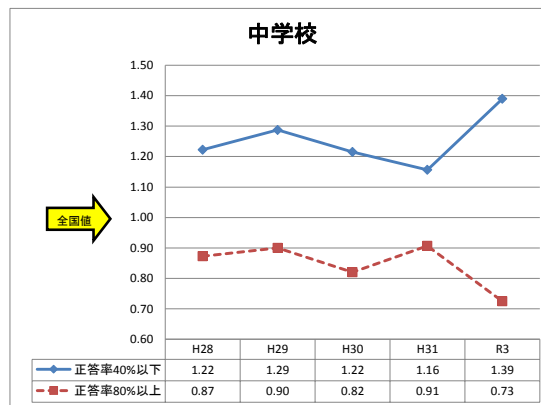
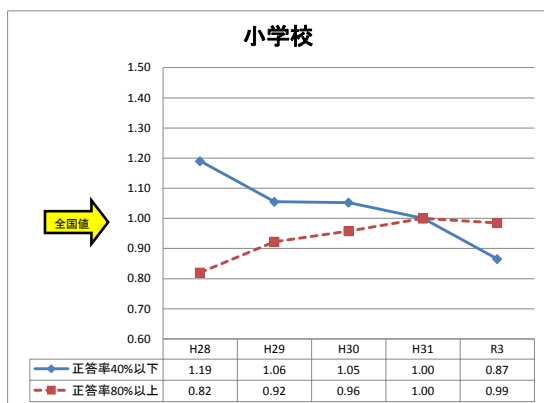
← (左記グラフの見方について)
H25-H28・・・平成25年度の小学第6学年を青、その児童が中学第3学年になった平成28年度を赤で示している。

- ・小学校は、平成28年度以降、上昇傾向にあり今年度は全国を上回った。
- ・中学校は、平成31年度は全国にやや近づいていたが今年度は下回る結果となった。
- ・同一児童生徒集団による経年比較では、中学3年生が小学6年生時(平成30年度)に実施した時と比べると、正答率は低下している。

令和3年度全国学力・学習状況調査結果(全体2)

正答率40%以下・80%以上の児童生徒割合の推移(全国比)

※柏原市内における正答率40%以下(低位層)・80%以上(上位層)の児童生徒の割合を算出し、全国の割合を1として表した。
 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等が考慮され、全国的に「実施なし」



・小学校においては、正答率40%以下(低位層)の割合が減少傾向で今年度は全国より少なく、正答率80%以上(上位層)の割合が増加傾向で、今年度は全国値とほぼ同等であった。

・中学校においては、今年度、正答率40%以下(低位層)の割合が増加し、正答率80%以上(上位層)が減少している。また同一児童生徒集団での経年比較から見ても、中学3年生が小学6年生時(平成30年度)に実施した時と比べると、同様の結果となった。

小学校国語

問題別調査結果

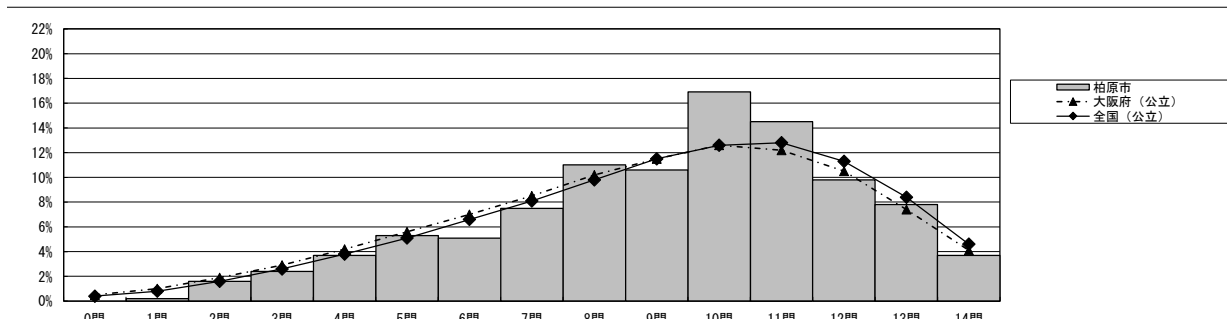
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>	
			柏原市	大阪府	全国		
全体		14	66	63	64.7		
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	70.1	67.4		68.3
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	77.9	76.7		77.8
		B 書くこと	2	62.4	57.3		60.7
		C 読むこと	3	46.2	45.2		47.2
評価の観点	知識・技能	6	70.1	67.4	68.3		
	思考・判断・表現	8	62.1	60.0	62.1		
問題形式	選択式	8	72.5	70.4	71.7		
	短答式	3	71.6	69.7	70.6		
	記述式	3	40.8	37.4	40.2		

○「全体」「評価の観点」「問題形式」のほぼすべてにおいて、全国及び大阪府の平均正答率を上回る結果となった。
 ○学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」について全国及び大阪府の平均正答率を上回る結果となった。

▼学習指導要領の内容「読むこと」の領域について大阪府を1%上回ったが、全国と比較すると1%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

正答数分布



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
言葉の特徴や使い方に関する事項 書くこと	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国、大阪府とほぼ同等の分布傾向にある。
 正答数10、11問(中位層)の割合が大阪府や全国に比べて多い。

小学校国語で課題の見られた設問 2三

面ファスナー

面ファスナーは、かぎやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくつつけたり、はがしたりすることができる、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一か四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このこともヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

三 相川さんは、「資料」の——部を読み、面ファスナーのくつつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

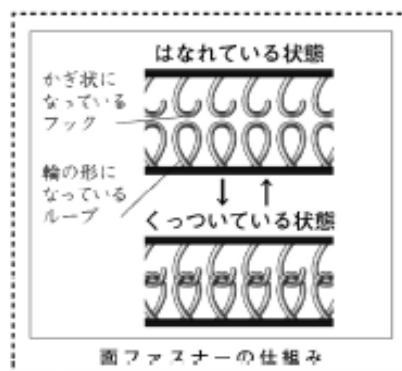
（条件）

- ヒントになったことと、面ファスナーのくつつく仕組みが分かるように書くこと。
- 「資料」の中の文章と [] の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、八十字以内にまとめて書くこと。



相川さん

（正答例）
メストラルは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくつつく仕組みの面ファスナーを作り出した。



★学習指導にあたって★

「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力の育成」

本設問の正答率は、本市が32.9%、大阪府が31.7%、全国が34.4%。無解答率は本市が4.9%、大阪府が4.2%、全国が4.1%であった。解答類型を見てみると、条件「ヒントになったこと」は書くことができているが「面ファスナーのくつつく仕組み」を書くことができずに誤答となっている児童が全体の37.3%だった。問題文の構成では「ヒントになったこと」は本文中に書かれているが、「面ファスナーのくつつく仕組み」は下の図表に書かれている。正答に必要な情報を図表から見つけることができている児童が多いと考えられる。

「必要な情報を見付ける」とは、文章の中から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることである。実生活において児童が触れる文章には、図表やグラフなどを含むものが多い。そのため、学習指導に当たっては、そのような文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係をとらえて読むことができるようにすることが大切である。文章と図表などの情報を合わせて読むことで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができる。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

実際に授業場面では、文章中の言葉と図表などの言葉を線で結び付けるなどして、視覚的に理解できるような工夫が必要である。例えば、ICTを活用し、必要だと考えた語や文にマーカーを引いて視覚的に結び付きをとらえたり、引いた部分を検討してマーカーを引き直したりする活動が効果的だと考えられる。

小学校算数

問題別調査結果

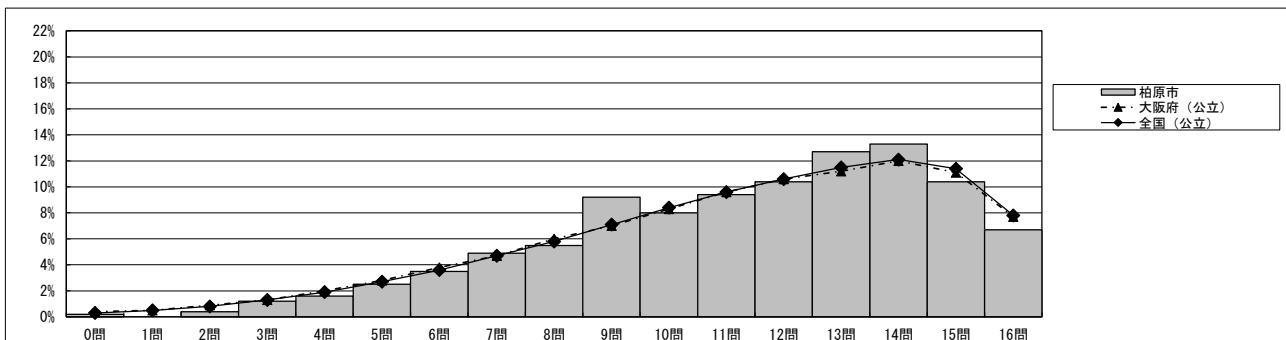
分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
全体		16	71	70	70.2	
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	64.2	62.7	63.1	
	B 図形	3	58.0	56.7	57.9	
	C 測定	3	72.9	74.5	74.8	
	C 変化と関係	3	78.7	75.7	75.9	
	D データの活用	5	74.3	75.7	76.0	
評価の観点	知識・技能	9	75.6	73.6	74.1	
	思考・判断・表現	7	64.1	64.6	65.1	
問題形式	選択式	6	74.9	75.9	76.0	
	短答式	6	78.4	74.8	75.8	
	記述式	4	52.4	52.7	53.0	

○全体の正答率について、全国及び大阪府を上回る結果となった。
 ○評価の観点では「知識・技能」について全国及び大阪府を上回っている。

▼「測定」「データの活用」の領域について、全国及び大阪府より下回っている。
 ▼評価の観点では「思考・判断・表現」について、全国及び大阪府より下回っている。

※ ○印：成果 ▼：課題

正答数分布



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
C 変化と測定	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国、大阪府とほぼ同等の分布傾向にある。

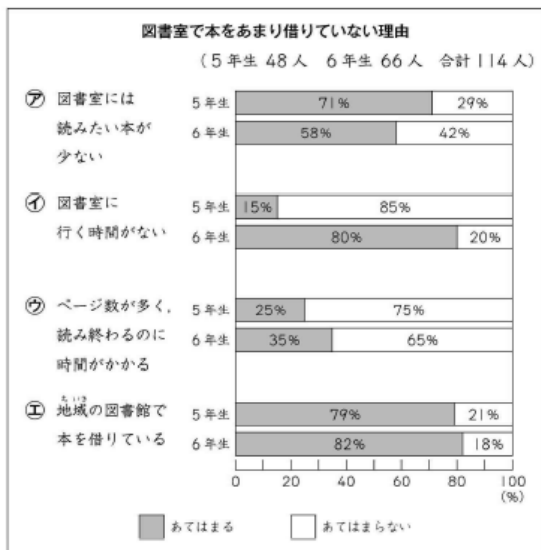
小学校算数で課題の見られた設問 3(4)

(4) 次に、ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書館で本をあまり借りなかった114人に着目しました。



図書館で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で、ちがいがあのでしょうか。

そこで、114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けて、下のグラフに表しました。



ひよりさんたちは、左のグラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

そうたさんとあやのさんは、左のグラフの中の⑦から⑤までの4つの項目について、「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目があります。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくなる項目もありますね。

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

(正答例)

5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は、①図書室に行く時間がないです。5年生が15%で、6年生が80%です。

★学習指導にあたって★

「複数のデータから項目間の違いに着目し、データの特徴や傾向を読み取ることができる力の育成」

複数のデータについて項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取ることができるようにすること。また、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにすることが重要である。

そのためにデータの活用領域の指導にあたり、例えば、帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために、帯グラフのどの部分に着目したのかなどを具体的に説明できるようにする活動が求められる。また、「説明する」に留まらずに友だちとの交流の中で、自分たちが出した結論について改めて批判的・多面的にとらえ直し、考察できるようにすることも大切である。

正答率については、本市が46.7%、大阪府が51.8%、全国が52.0%。無解答率は本市が12.5%、大阪府が9.9%、全国が10.3%であった。解答類型を見ると特に「エ」のグラフを選択している児童が多く、設問にある「割合のちがいがいちばん大きい」項目ではなく「割合がいちばん大きい」グラフを選択してしまったのではないかと考える。

本設問にあるように、設定としての「問題意識」や「主張の内容」を正しく読み取ることが、“何のために”複数のデータを比較する必要があるのか考える力につながり、目的に応じたデータの活用や、問題解決学習をすすめる際に必要な力になる。

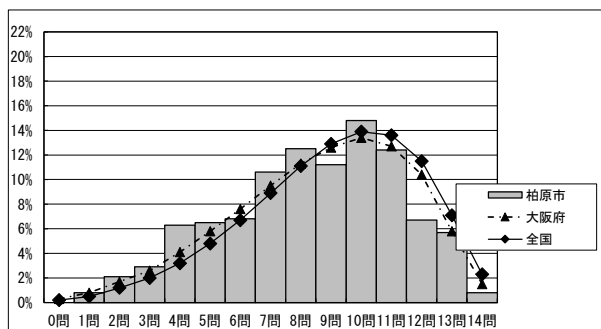
問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
全体		14	60	62	64.6	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	76.1	76.2	79.8	
	書くこと	3	51.0	54.1	57.1	
	読むこと	4	40.9	45.4	48.5	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	72.9	73.8	75.1	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	48.1	51.5	56.0	
	話す・聞く能力	3	76.1	76.2	79.8	
	書く能力	3	51.0	54.1	57.1	
	読む能力	4	40.9	45.4	48.5	
	言語についての知識・理解・技能	4	72.9	73.8	75.1	
問題形式	選択式	6	60.1	61.7	63.9	
	短答式	4	70.9	73.0	74.4	
	記述式	4	48.1	51.5	56.0	

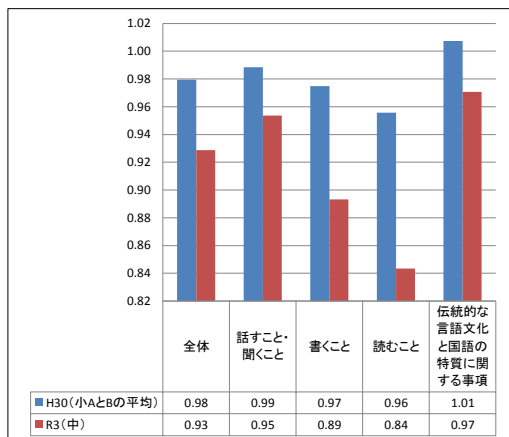
○「話す・聞く能力」については、全国平均には届かないものの、府平均とほぼ同等の成果が見られる。
 ▼全体の正答率については、全ての領域において全国・府平均を下回る結果となっている。
 ▼同一児童生徒集団経年比較から見ると、「書くこと」「読むこと」共に課題が見られる。

※ ○印:成果 ▼:課題

正答数分布



【全国比】同一児童生徒集団経年比較 (H30-R3)



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
該当なし	書くこと 読むこと

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府と比較した際に、特に12問・14問の正答数が下回っている傾向にあり、上位層が少ないことがわかる。中間層(正答数7～10問)に関しては、概ね全国・大阪府を上回っている傾向にある。

中学校国語で課題の見られた設問 3三

〔ことばのあらすじ〕 若沙弥先生の家で暮らすことになった猫の「吾輩」は、ある日、家の裏にある茶店で黒猫の「黒」と出会う。「黒」は大きな体格で、車屋（人力車を引く人）に飼われている黒猫である。それ以来、「吾輩」はたびたび「黒」に出くわすようになる。

ある日、例のごとく吾輩と黒は暖かい茶店の中で寝ころびながら、いろいろ雑談をしていると、彼はいつもの自慢話をさも新しそうにくりかえしたあとで、吾輩に向かって「下のごとく質問した。」

「おめえはいままに、風を何びきとったことがある。」
 吾輩は黒よりもよほど発達しているつもりだが、腕力と勇氣にいたってはとうてい黒の比較にはならないと覚悟はしていたものの、この問いに接したときは、さすがにまじりがよくなるなかった。けれども事実上事実で、いつわるわけにはゆかないから、吾輩は

「実はどうとうとうと思つて、まだとらない」と答えた。

黒は、彼の鼻の先からびんとつばつて長いひげをびりびりとふるわせて、非常に笑った。元来黒は自慢をするだけにとどまらないところがあつて、彼の氣持を感心したようにのどをころもろらして謙遜しては、はなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近づきになってからすくなくこの呼喚をのみこんだから、この場合にも、なまじいおれを弁護してますます形勢を悪くするの感である、いつそのと彼に自分の手柄話をしゃべらしてお茶をにごすにしくはないと、思案を定めた。そこでおとなしく、

「君などは年が年であるから、だいふんとうたるう」と、そのかしてみた。

果敢に、堪忍の欠所に斬撃して来た。

「たんとでもねえが、三、四十はとつたるう」とは、得意気な彼の答へであつた。彼はなお話をつづけて、「風の百や二百は一人でも引手を受けるが、いたちつてえやつは手に合ねえ。一度いたちに向かつて、ひとい目にあつた。」

「へえ、なるほど」と、あいづちをうつ。

黒は大きな眼をばらつかせて、いう。

「去年の大掃除のときだ。うちの学生が石炭の袋を持って縁の下へはいこんだら、おめえ、大きないたちの野郎がめんくらつて獲びだしたと思ひねえ。」

「ふん」と感心して見せる。

「いたちつてけども、なに、風のすこし大きいくれえのものだ。こんちきしよつて氣で通つかけて、とうとうとぶの中へ這いこんだと思ひねえ。」

「うまくやつたね」と喝采してやる。

「ところがおめえ、いざつてと後になると、やつめ最後っ尻をこきやがったくせえのくきくねえのつて、それからつてえものはいたちを見ると胸が悪くならあ。」

彼はここにいたつて、あたかも去年の風氣を身にお感することく、前足をあげて鼻の頭を二、三べんなでまわした。吾輩も少々氣のどくな感じがする。ちつと景氣をつけてやろうと思つて、

「しかし風なら、君にいらまされては百年目だらう。君はあまり風をとるのが名人で風ばかり食うものだから、そんなにふとつて色つやがいのだらう。」

黒のきげんをとるためのこの質問は、ふしぎにも反対の結果を出した。彼は愕然として大息して、いう。

「考げえらとつたらねえ、いくら探いで風をとつたつて——いづつて人間はどふてえやつは世の中にいねえぜ、人のとつた風をみんな取りあげやがつて、交番へ持つてゆきあが。交番じゃ、だれがとつたかわからねえから、そのたんに五錢ずつくれるじゃねえか。うちの学生なんか、おれのおかげで一円五十錢くらいもうけていやがるくせに、ろくなものを食わせたこともありやしねえ。おい、人間でもあ体のいい泥棒だぜ。」

さすが無学の黒もこのくらの理屈はわかるとみえて、すこぶるおこつたようすで背中の毛を逆立てている。吾輩は少々氣味が悪くなったから、いかげんにその場をこまかせて、うちへ帰つた。

このときから吾輩は、けつして風をとるまいと決心した。しかし、黒の子分になつて風以外のちつさうをあさつてあるくことしなかつた。ちつさうを食ふよりも寝ていたほうが氣楽でいい。

三 ―― 彼の「反対の結果を出した」とありますが、このことは「黒」のどのような様子から分かりますか。「文章の二」の「中から探し、抜き出してください。」

正答例

- ・彼は愕然として大息していう。(。)
- ・すこぶるおこつたようすで背中の毛を逆立てている(「すこぶるおこつたようす」もしくは「背中の毛を逆だてている」と回答しているものも可)

★学習指導にあたって★
 「登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てる指導が必要」

文学的な文章を読む際には、登場人物の言葉や行動が話の展開などにどのように関わっているかを考えながら読むように指導することが大切である。その際、これまでの「C読むこと」の学習を踏まえて、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うように指導することが大切である。

例えば、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(2)「イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。」などとの関連を図った学習活動が考えられる。その際、引用箇所をかぎ(「 」)でくくること、辞典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認することも大切である。

正答率については、本市が65.6%、大阪府が68.6%、全国が71.0%であった。また無解答率は11.4%(大阪府は8.9%、全国は7.3%)であり、国の正答率・無解答率と比較すると課題が特徴的に表れていると言える。複数の場面の情報を適切に読み取り、選択できる力の育成について、国語科だけに留まらず教科等横断的な視点で取り組む必要がある。

中学校数学

問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
	全体	16	51	56	57.2	
学習指導要領の領域	数と式	5	58.0	63.6	64.9	
	図形	4	43.0	49.9	51.4	
	関数	3	52.9	54.7	56.4	
	資料の活用	4	50.0	51.7	53.8	
評価の観点	数学的な見方や考え方	7	34.5	39.6	41.1	
	数学的な技能	3	73.9	76.7	77.7	
	数量や図形などについての知識・理解	6	59.6	63.6	65.6	
問題形式	選択式	2	46.8	50.7	52.4	
	短答式	9	64.9	68.8	70.5	
	記述式	5	28.5	33.6	35.0	

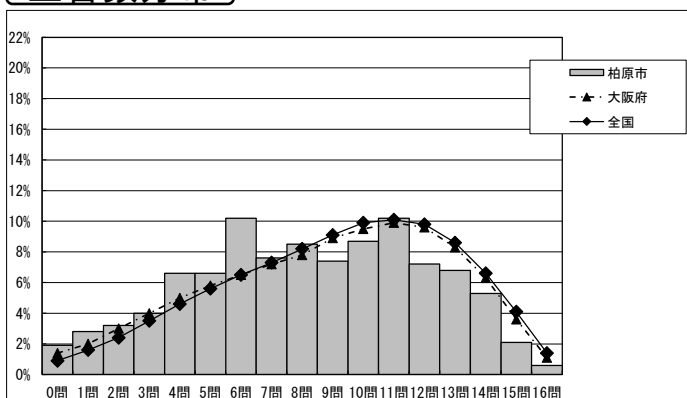
○「数学的な技能」の観点では、一定の水準の理解が見られる。

▼「数と式」「図形」の領域について、府や全国との差が特に大きく、課題である。

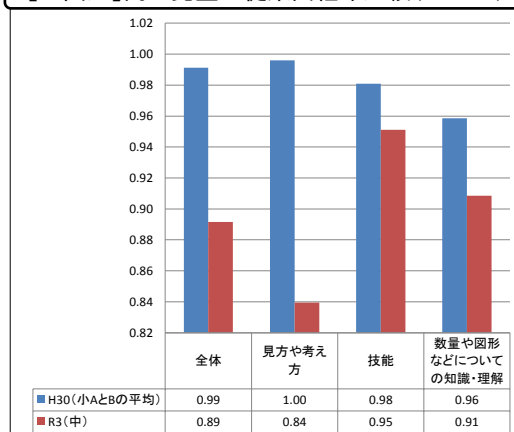
▼同一児童生徒集団での経年比較では、小学校時と比較した際に「数学的な見方や考え方」の観点で特に大きな乖離が見られた。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

正答数分布



【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H30-R3)



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
該当なし	数と式 図形

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

正答数12問以上の割合は全国・大阪府と比べても割合が低く、上位層が少ない様子を見てとれる。一方で、正答数6問以下の割合は全国・大阪府と比べて割合が高く下位層が多い傾向にある

中学校数学で課題の見られた設問 6(2)

⑥ 自然数を5ずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

優太さんと真菜さんは、右の図2のように、4つの数を囲んで、それら4つの数の和がどんな数になるかを調べています。

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

1, 2, 6, 7のとき $1 + 2 + 6 + 7 = 16 = 4 \times 4$
 9, 10, 14, 15のとき $9 + 10 + 14 + 15 = 48 = 4 \times 12$
 22, 23, 27, 28のとき $22 + 23 + 27 + 28 = 100 = 4 \times 25$

優太さんは、これらの結果から、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になると予想しました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、4つの数の和は4の倍数になることが成り立つかどうかを下のように確かめます。下の に当てはまる式を書きなさい。

12, 13, 17, 18のとき $12 + 13 + 17 + 18 = 60 = \text{$

(2) 二人は、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることが成り立つかどうかについて話し合っています。

優太さん「左上の数が1のとき、左下の数が6になっているね。四角で4つの数を囲むとき、左上の数を5をたすと左下の数になっているよ。」
 真菜さん「そうなのは、自然数を5ずつで区切っているからだね。」
 優太さん「左上の数を n とすると、左下の数は $n+5$ と表すことができるね。」
 真菜さん「右上の数と右下の数も n を使って表して、4つの数の和について調べてみよう。」

「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる」という優太さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

説明

n を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を n とすると、右上の数は $n+1$ 、左下の数は $n+5$ 、右下の数は $n+6$ と表される。これら4つの数の和は、

$$n + (n+1) + (n+5) + (n+6)$$

=

正答例

$4(n+3)$
 $n+3$ は自然数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。
 したがって、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数である。

★学習指導にあたって★

「事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できる力の育成」

事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切である。

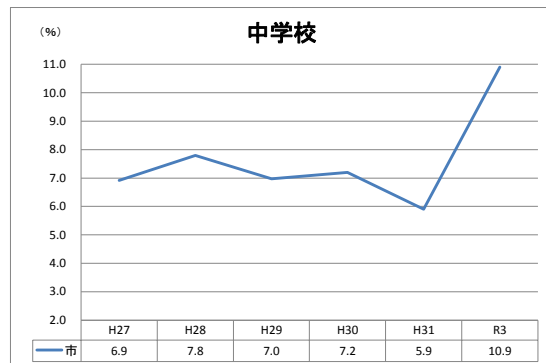
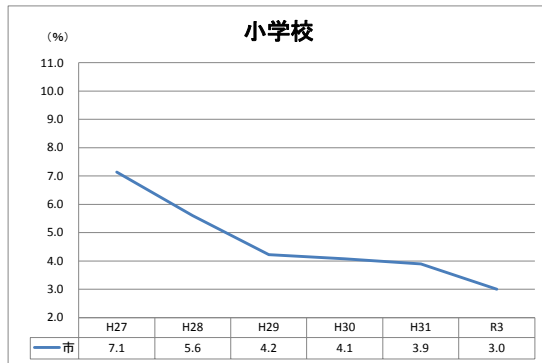
本設問を使って授業を行う際には、予想した事柄である「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる。」ということの説明するために、四角で囲んだ4つの数の和を表した式を $4 \times (\text{整数})$ の形にすればよいという見通しをもって、変形する場面を設定することが大切である。その際、 $4n+12$ という表現にとどまっているものを取り上げ、この式を用いて4の倍数になることを示すためには、「 $4 \times (\text{整数})$ 」という形の式で表せばよいことを確認するなど、 $4n+12$ を $4(n+3)$ と変形できるように指導することが大切である。さらに、本設問では、 n が自然数のため、 $n+3$ も自然数になり、同時に整数であることを確認した上で、「 $n+3$ が自然数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。」もしくは「 $n+3$ が整数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。」と表現することができるようにするなど、説明を洗練させていく活動を取り入れることが考えられる。

正答率については、本市が52.8%、大阪府が60.9%、全国が61.8%であった。また無解答率が25.8%となっており、大阪府の18.7%、全国の15.4%と比較すると割合が大きくなっており、意図した内容を数式で表す方法の理解に課題があることが見て取れる。

重点項目「書く力の育成」について

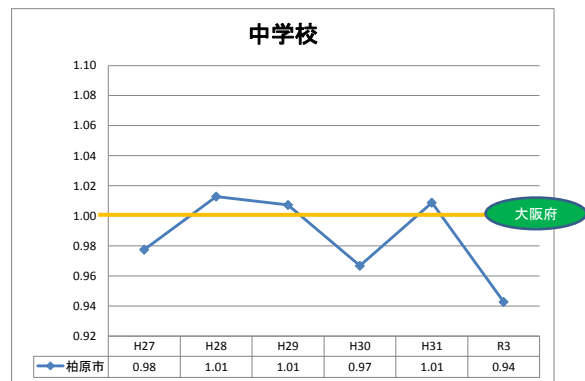
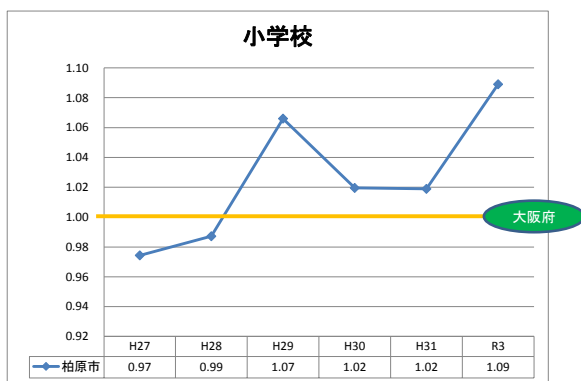
無解答率の推移

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等が考慮され、全国的に「実施なし」



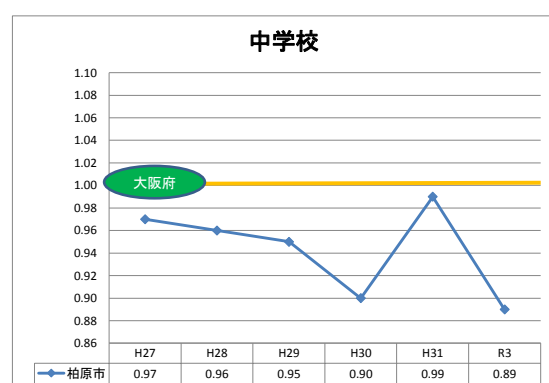
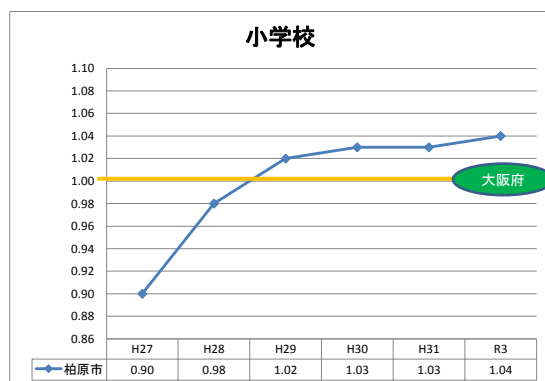
「書くこと」の領域における正答率(大阪府比)の推移

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等が考慮され、全国的に「実施なし」



「記述式」問題における正答率(大阪府比)の推移

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等が考慮され、全国的に「実施なし」



平成28年度より「書く力」を市のテーマと位置付け取り組んでおり、その前年度からの各項目の経年比較を表した資料である。

「無解答率」「書くこと領域」「記述式問題」といった全体をとおして、小学校については、上昇傾向である。中学校では大阪府と比べても上回ったり下回ったりし、今年度はこれまでで一番課題が見られる結果であった。

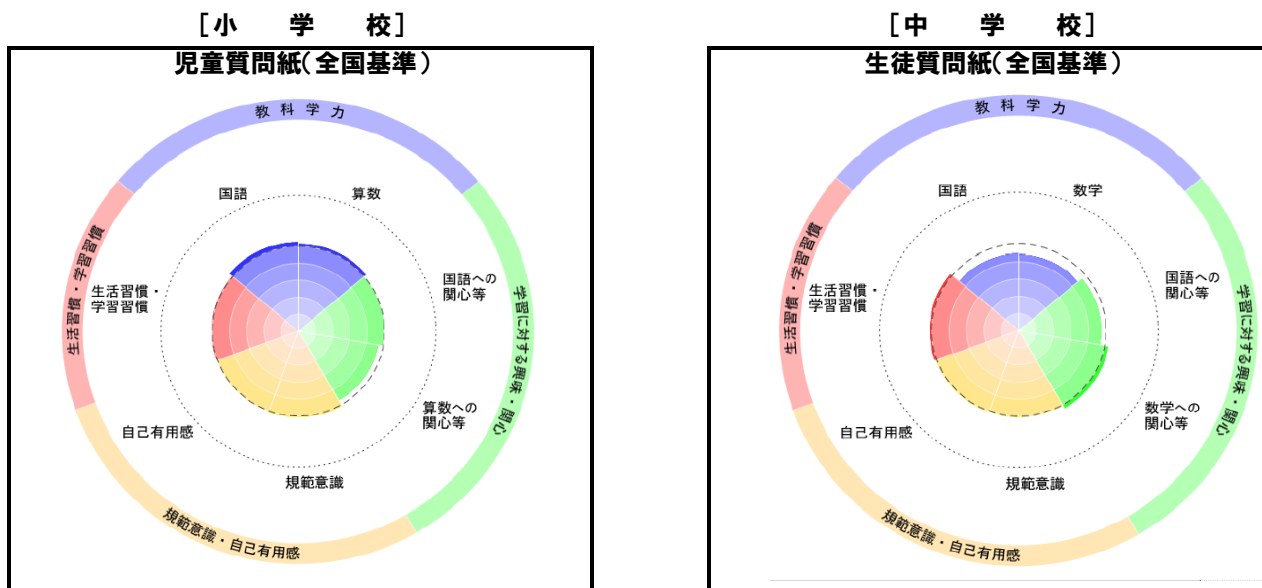
「書く」プロセスの中には「情報を読み取る力」や「表現の見通しを立てる力」「表現する力」など様々な要素がある。今回の調査で小・中学校各教科共通して課題となったのは「(複数の)情報を読み取る力」である。児童生徒の課題に正対した取り組みを進めるために、各教科の分析を改めて整理し、かつ学習指導要領の趣旨もふまえながら授業改善に取り組んでいく必要がある。

児童・生徒質問紙調査について

1. チャート図

…教科に関する調査,および児童質問紙調査の結果を全国値を基準に図示したもの

※全国平均は破線部分、柏原市平均は色つき部分



2. 児童生徒質問紙のクロス分析

☆全国的に、下記のように回答している児童生徒の方が、
教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

【基本的生活習慣等】

・普段(月曜日から金曜日), 1日当たり、テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が短い。

【学習習慣、学習環境等】

・学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たり勉強をする(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)時間が長い。
・土曜日や日曜日など学校が休みの日に, 1日当たり, 勉強をする(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)が長い。
・家にある本の冊数が多い。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況】

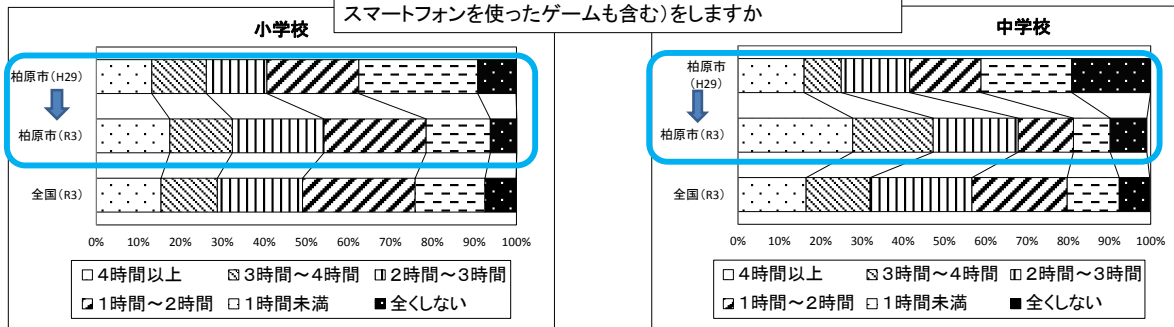
・前年度までに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表している。
・前年度までに受けた授業では, 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいる。
・学級の友達との間で話し合う活動を通じて, 自分の考えを深めたり, 広げたりすることができている。
・学習した内容について, 分かった点や, よく分からなかった点を見直し, 次の学習につなげることができている。

アンケート結果 1 (—児童・生徒質問紙調査より—)

平均正答率が高い傾向のある質問① (クロス分析より)

基本的な生活習慣等

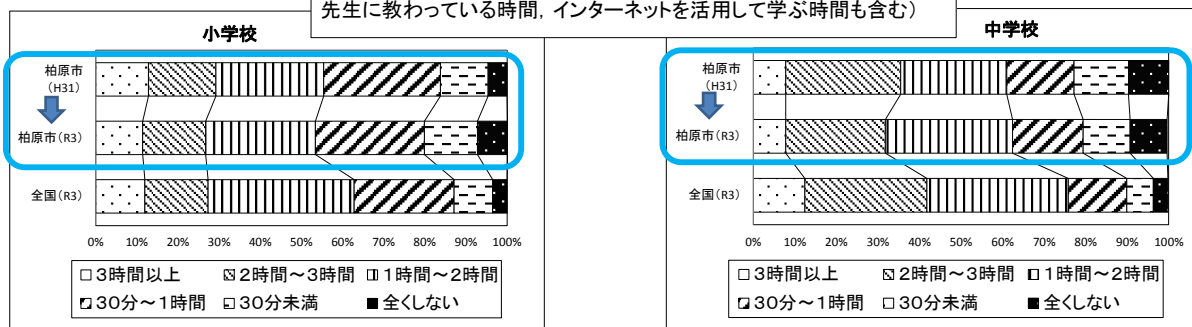
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



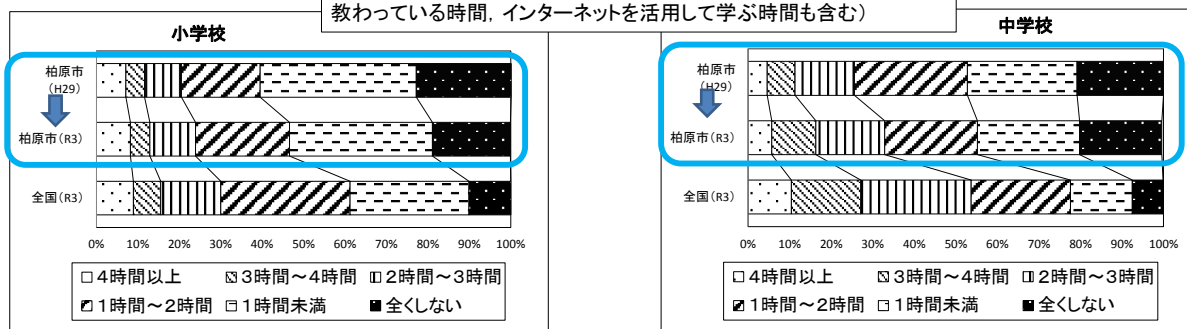
- ・小学校中学校ともに、前回同じ質問のあったH29年度より利用時間が増加している。
- ・全国と比較しても利用時間が長い。

学習習慣、学習環境等

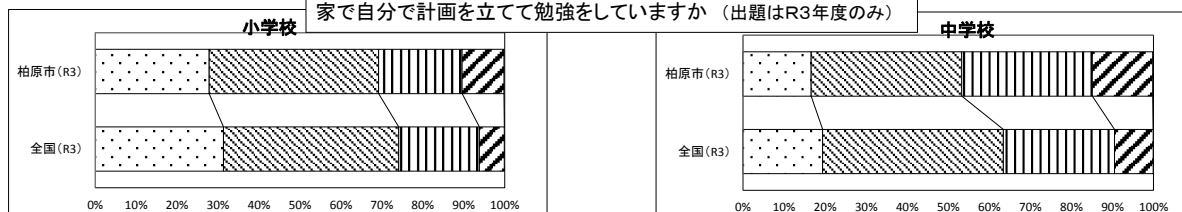
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (出題はR3年度のみ)



※左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」

- ・小学校では、月から金曜日の学習時間は減少傾向。学校が休みの日の学習時間は増加傾向にあるが、特に、「家庭で学習を全くしない」と回答する児童の割合が、全国と比較して高い。
- ・中学校では、全体を通して学習時間が増加傾向にあるが、小学校同様、「家庭で学習を全くしない」と回答する生徒の割合が全国と比較して高い。
- ・小・中学校ともに「自分で計画を立てて勉強」をしている児童生徒が全国に比べて少ない。

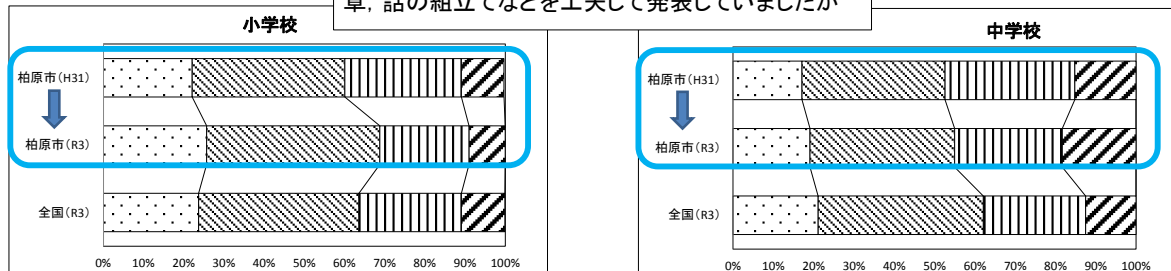
アンケート結果 2 (—児童・生徒質問紙調査より—)

平均正答率が高い傾向のある質問②
(クロス分析より)

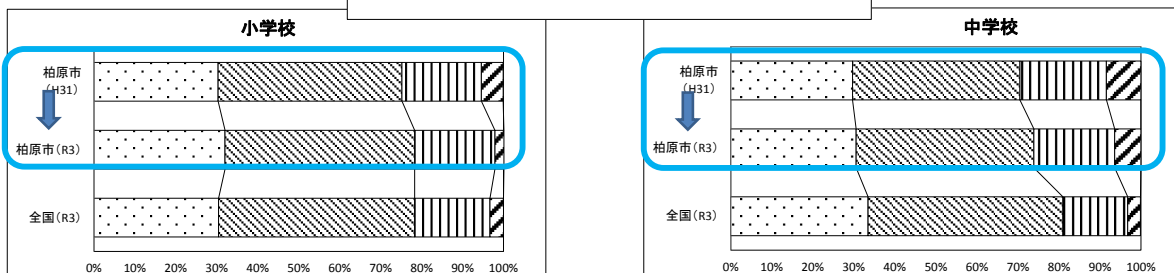
※横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

主体的・対話的で深い学びの視点からの 授業改善に関する取組み状況

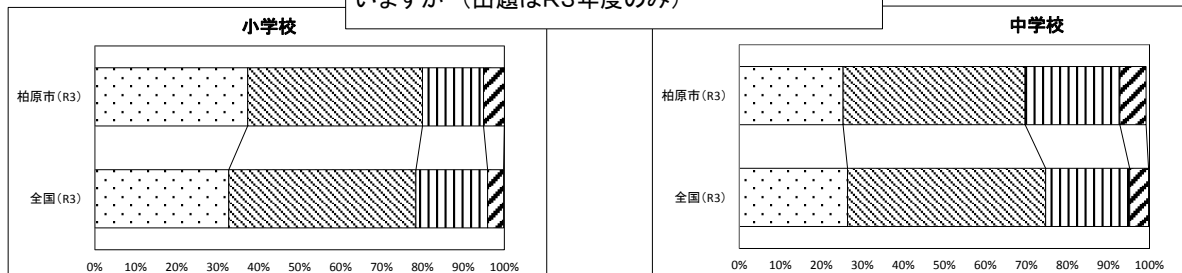
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する
機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文
章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、
自分で考え、自分から取り組んでいましたか



学習した内容について、わかった点や、よくわからな
かった点を見直し、次の学習につなげることができ
ていますか (出題はR3年度のみ)



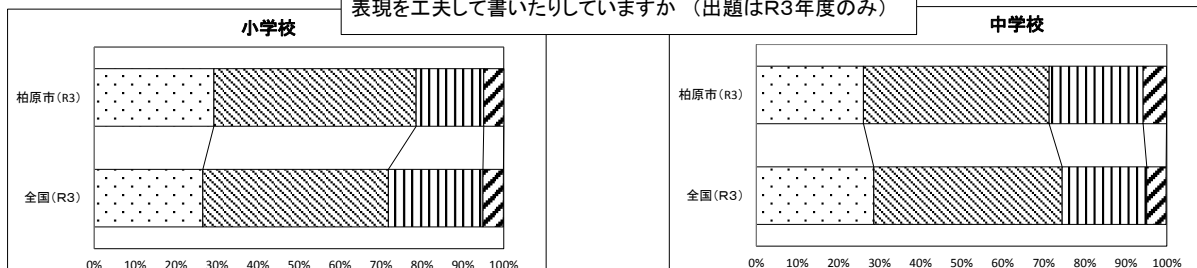
・小学校では、どの項目でも前回調査と比較して肯定的回答(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計)が増加しているとともに、全国と比較しても「あてはまる」と回答した児童が多い。特に、今年度から出題された「次の学習につなげる」という項目は約5%上回っている。

・中学校では、どの項目でも前回調査と比較して肯定的回答が増加しているが、全国と比較するとまだ課題があると言える。

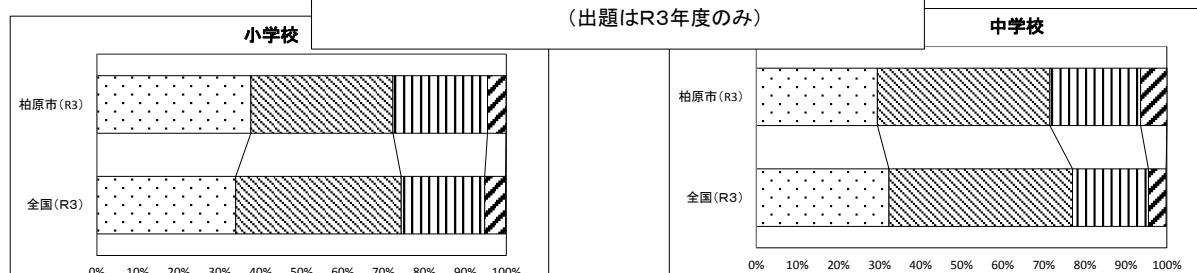
※横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

国語

国語の授業では、目的に応じて、
 (小) 自分の考えとそれを支える理由との関係がわかるように
 (中) 自分の考えが伝わるように根拠を明確にして
 表現を工夫して書いたりしていますか (出題はR3年度のみ)

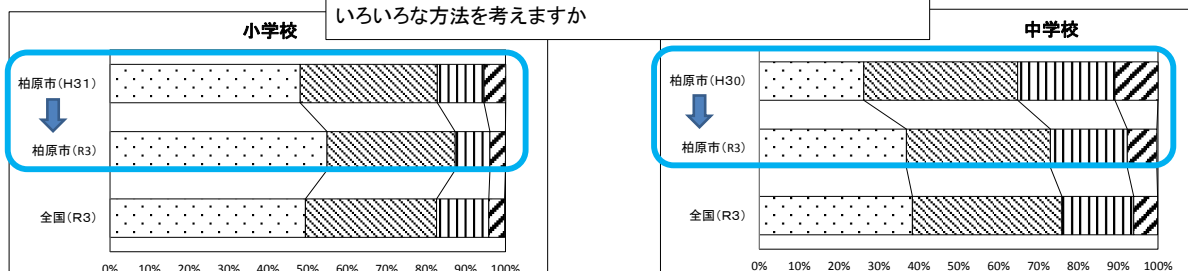


国語の授業では、目的に応じて文章を読み、
 (小) 感想や考えを持ったり自分の考えを広げたりしていますか
 (中) 内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか
 (出題はR3年度のみ)

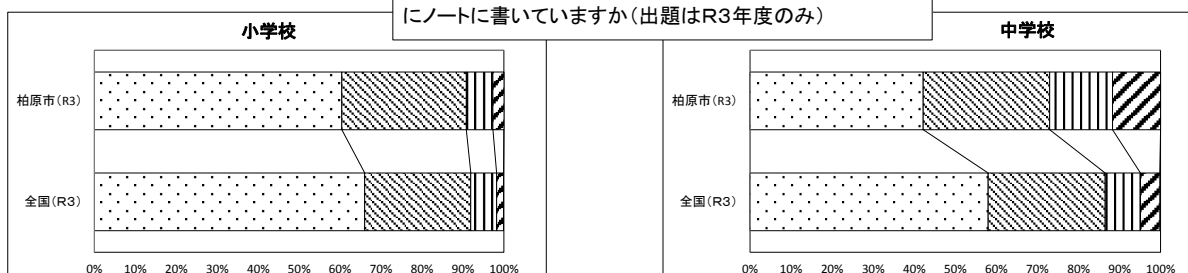


算数・数学

算数[数学]の問題の解き方がわからないときは、あきらめずに
 いろいろな方法を考えますか



算数[数学]の授業で問題の解き方や考え方がわかるよう
 にノートに書いていますか(出題はR3年度のみ)



・国語において「目的に応じて～工夫して書く」項目では、肯定的回答が小学校は全国よりやや高く、中学校はやや低い。また、「目的に応じて文章を読み～考えを広げたり深めたり～」の項目では小中学校ともに全国と比べてやや課題が見られた。

・算数[数学]において「あきらめずにいろいろな方法を考える」項目では、小中学校ともに前回調査に比べて改善傾向にあり、小学校では全国を上回る結果であった。算数[数学]において「～わかるようにノートに書く」項目では小学校中学校ともに全国より肯定的回答が低い。

○「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上3ヵ年計画)」について

「かしわらっ子はぐくみプラン」では、今年度より「すべての子どもたちに確かな学力を！！～教育委員会・学校・家庭が連携した取組の推進～」を目標に、柏原市では平成31年度より学力向上に向けて、3つのテーマと7つの取組みを進めています。以下に、全国学力・学習状況調査の結果と関連する内容をまとめます。

1. 繋がりのある学び

取組②:「書く力」や「読み取る力」の向上を図る「わかる授業」づくり

- ・「記述式」問題に向けた授業づくり研修の実施
- ・各校の授業研究会等での指導助言
- ・ルーブリック等の研究・作成に向けた助言

取組③: 英語教育の推進

- ・英語教育推進委員会を中心に、系統だった年間研修計画の立案と実施
- ・外国語教育の研修の充実
- ・ALTの配置

2. ビジョンのある研修

取組④: 研修の充実・推進(ICTを活用した授業づくりの研修を含む)

- ・新学習指導要領の趣旨に沿った「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る研修の充実
- ・経験の浅い教員を対象とした「フレッシュ研修」の実施
- ・ICT機器の整備及び活用に関する研修の実施
- ・ICT活用推進委員会及びICT教育推進リーダー会議の設置・運営

3. 広がりのある連携

取組⑥: 家庭学習習慣の定着

- ・学校や家庭に向けた啓発

取組⑦: 読書習慣の定着

- ・学校司書の配置と学校図書館支援指導員の派遣
- ・市立図書館との連携
- ・「子ども読書活動推進計画」の啓発

○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・特に全国学力・学習状況調査問題や結果をもとにした授業改善について研修を進める
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・経験年数の多い先輩教員の授業参観及び、協議に参加
- ・学校公開にて、授業の参観及び取組み報告会に参加
- ・「(複数の)情報を読み取る力」をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施する

○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・特に全国学力・学習状況調査の分析結果を、授業改善や各取組みに活かす
- ・「(複数の)情報を読み取る力」に焦点をあて、活動の充実を図る
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切にし、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる
- ・英語教育推進教員を中心に、中学校における英語、小学校における外国語教育を充実させる
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、ICTを活用した教育を充実させる
- ・各学校の部活動の在り方に関する方針に則り、子どもに適切な休業を確保しながら基本的生活習慣の確立を図る

○家庭にお願いすること

- ① 基本的生活習慣の定着
 - ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
 - ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
 - ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる
- ② 家庭学習習慣の定着
 - ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
※中学1年生は、7年生とする
 - ・毎日の宿題ができているかを確認する
- ③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り
 - ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
 - ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する

○これまでの柏原市及び教育委員会の教育計画

平成23年「第4次柏原市総合計画」策定□
平成26年「柏原市教育振興基本計画」策定
平成28年「かしわらっ子はぐくみプラン(第1期柏原市学力向上3ヵ年計画)策定
平成29年「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」策定
平成31年「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上3ヵ年計画)策定□

上記の「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」と「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上3ヵ年計画)」において、その成果指標として、「平均正答率と正答率40%以下及び80%以上を全国並みにする」としました。

○本年度の結果

①平均正答率(全国を1.00として)□

教科(正答率)		H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R3	目標値	
小学校	国語	A	0.92	0.96	0.98	0.99	0.97	1.02	1.00以上
		B	0.90	0.96	0.92	0.97			
	算数	A	0.96	0.96	0.99	0.99	1.01	1.01	1.00以上
		B	0.89	0.93	0.96	0.99			
中学校	国語	A	0.98	0.97	0.97	0.97	0.96	0.93	1.00以上
		B	0.99	0.96	0.94	0.93			
	数学	A	0.94	0.97	0.98	0.97	0.97	0.89	1.00以上
		B	0.92	0.94	0.94	0.87			

※H31(R1)年度からA問題とB問題が一体化。理科と英語は3年ごとの調査なので省く

②正答率40%以下及び80%以上の経年変化については3ページを参照

【評価】

小学校では国語算数ともに目標値を達成した。中学校では全国との開きがあり、正答率40%以下及び80%以上の経年変化も含めて前回調査に比べても課題が大きいととらえる。今年度の分析をふまえ、「かしわらっ子はぐくみプラン(第3期柏原市学力向上4ヵ年計画)」を策定し、課題の改善に向けて取り組む。